

「健康都市やまぐちの 新たな展開」

平成28年8月19日(金)

事務局提出資料

テーマ

健康都市やまぐちの新たな展開に向けた方向性

【事例紹介】

健康×地域資源×プログラム・都市基盤によるまちづくりの事例

①定住促進につながる事例

①-1 シェア金沢(石川県金沢市)

①-2 ゆいま～る那須(栃木県那須町)

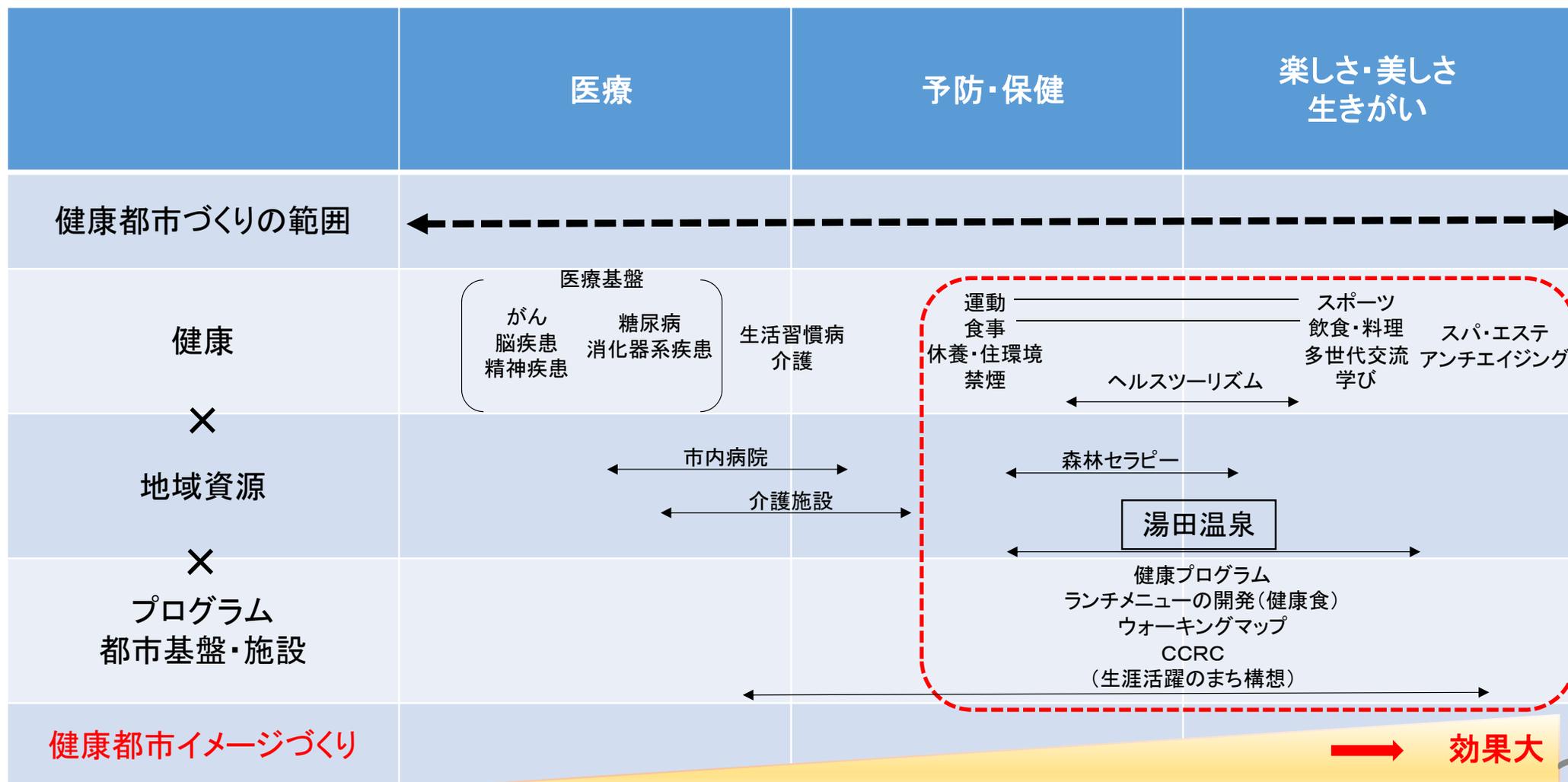
②地域活性につながる事例

②-1 コミュニティ銭湯(新潟県見附市)

【山口市の可能性】

～健康都市づくりを進めていく上での地域資源～

健康都市やまぐちの新たな展開に向けた方向性



事例紹介 ①-1 シェア金沢(石川県金沢市)

社会福祉法人が運営するシェア金沢(石川県金沢市)では、都市部からの移住者も含め、健康な高齢者がサービス付き高齢者向け住宅に居住し、ボランティア・農作業・多世代交流・住民自治等を行いながら生活している。また、ケアが必要になった場合には、併設事業所等から介護等のサービスを受けることができる。

- ◎ 地域特性：田園地域型
- ◎ 事業主体（コミュニティの特徴）：社会福祉法人
- ◎ 地域的広がり：エリア型
- ◎ 住み替え：近隣転居型

◎ シェア金沢の全体像（総面積：約11,000坪）

- ：サービス付き高齢者向け住宅
- ：障害児入所施設
- ：学生向け住宅



◎ 運営主体・住民

- ・運営主体：社会福祉法人佛子園
- ・高齢者住宅の戸数：全32戸
- ・入居者：単身、夫婦等
- ・元々の居住地：金沢市、石川県内（金沢市以外）、県外（東京圏、大阪圏など）
- ・要介護度：自立（非該当）、要支援、要介護
- ・取組開始：2013年9月
- ・年齢：60代～90代

◎ 住まい・まちづくり

- ・1戸の居住スペース：42～44㎡
(LDK(10畳)、寝室(6.6畳)、ウォークイン・クローゼット(2.9畳)・浴室・洗面・トイレ) ※その他、複数世帯の共有スペースあり
- ・バリアフリー構造、ペットも入居可。賃貸借契約。
- ・多世代（高齢者・障害児・学生）の住居をバラバラに配置し、交流推進。

◎ 活動

- ・希望に応じて共同売店での就労ボランティアに従事（売上は従事者で配分）
- ・農園での農作業の実施も可能。
- ・居住する高齢者・学生による住民組織が組織されている。
- ・居住する障害児・学生や、周辺地域から店舗等に来訪する地域住民などとの交流が盛ん（多世代交流）。

◎ ケア

- ・要支援・要介護者は併設している訪問介護事業所の介護サービスを利用（地域の他事業所を継続して利用している者もいる）。
- ・医療が必要な場合に備え、医療機関と提携している。

(資料) シェア金沢ホームページ等に基づき作成。※緑枠は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局における整理。 5

事例紹介 ①-1 シェア金沢(石川県金沢市)



メインストリートを挟んで並ぶ住居(左)、とショップ(右)



福祉児童入所施設



サービス付高齢者住宅



天然温泉



キッチンスタジオ



Cafe & Bar Mock
オープンデッキ

事例紹介 ①-2 ゆいま〜る那須(栃木県那須町)

株式会社が運営する「ゆいま〜る那須」では、都市部等から移住した高齢者が、健康な時からサービス付き高齢者向け住宅に居住して、就労や文化活動を行いながら生活し、ケアが必要になった場合は、併設事業所等から介護等のサービスを受けられる。本格的な定住のほか、2地域居住を行うことも可能。

◎ **地域特性：田園地域型**

◎ **事業主体（コミュニティの特徴）：
株式会社**

◎ **地域的広がり：エリア型**

◎ **住み替え：大都市移住型**

◎ **ゆいま〜る那須の概況（総面積：30,000坪）**

ゆいま〜る那須D棟中庭で語らう入居者



ゆいま〜る那須の外観

◎ **運営主体・住民**

- ・運営主体：株式会社コミュニティネット
- ・取組開始：2008年6月 ・入居開始：2010年11月
- ・高齢者住宅の戸数：全70戸 ・年齢：60代～90代
- ・元々の居住地：東京（最多）、関西等
- ・要介護度：自立（非該当）、要介護
- ・本格定住のほか、以下の形で、2地域居住を行うことも可能。
「倶楽部タイプ」：終身又は15年契約。年間24日利用可能。

◎ **住まい・まちづくり**

- ・1戸の居住スペース：33.12m²～66.25m² 1R～2LDK
- ・バリアフリー構造。賃貸借契約。
- ・自然素材を基調とした平屋建てが中心の戸建て風住宅。
- ・住戸に囲まれた中庭で、日常的なコミュニケーションを推進。
- ・草木や空などの自然が感じられるよう、広い敷地に住宅を点在。

◎ **活動**

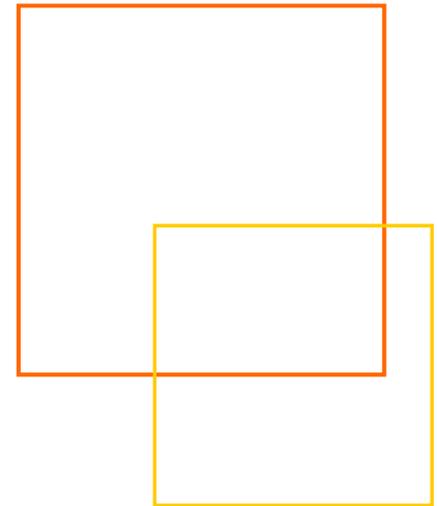
- ・各参加者（居住者・地域住民）が出資し、事業運営を決定する「ワーカーズコレクティブ」を通じて、手仕事品の販売や菓子・保存食づくり、手打ちそば提供等の就労が可能。地域住民との交流も可能。
- ・牛が放牧されている森林酪農エリアに隣接しており、入居者がボランティアで牛の餌やり等をしている。
- ・図書室・音楽室・自由室といった共有スペースで、書道・体操・ガーデニング・料理教室など多彩な文化活動の実施が可能。

◎ **ケア**

- ・敷地内にデイサービス事業所を併設。ケアが必要になった場合は、併設事業所の介護サービスを受けることが可能。
- ・医療機関と連携し、日頃の健康チェックから、在宅医療・看取りまでの提供を図っている。

（資料）ゆいま〜る那須ホームページ等に基づき作成。※緑枠は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局における整理。 3

【M e m o】



事例紹介 ②ー1 コミュニティ銭湯(新潟県見附市)

【コミュニティ銭湯の目的】

コミュニティ銭湯がまちなかの集客・交流の中核施設となり、来訪者がまちなかを回遊することで、中心市街地の活性化・まちなかの賑わいにつなげる。

(1) まちなか賑わいづくり

集客力を高め、商店街との連携によりまちなかの賑わいを創出

(2) 市民の交流の促進

若い方から高齢者まで楽しめ、多世代が交流する場

(3) 市民の健康の増進

交流や入浴を通して市民の健康づくりに

(4) 災害時の防災拠点

1階、3階は災害時の避難所・温浴施設として機能発揮



構造・規模: 鉄骨造3階建て

建物延床面積: 2,069㎡

アクセス: 駐車場119台、

臨時駐車場(土日祝日約70台)

付近にコミュニティバス停設置予定

運営方法: 指定管理者制度

事例紹介 ②-1 コミュニティ銭湯(新潟県見附市)

【施設の内容】

1階:交流フロア(入館料無料)【フロント、レストラン、多目的室(くつろぎ室)、カラオケ室など】

○下足コーナー:432、休憩席数:154席(レストラン67、ソファー39、多目的室48(42畳))

○情報コーナー(商店街・観光情報等の発信)

2階:大浴場フロア【内風呂と露天風呂の9種類、遠赤サウナなど】

○浴槽:(内風呂)白湯、電気風呂、ぬる湯、冷水風呂、ジェットバス、リラクゼーションバス
(露天風呂)炭酸泉、寝転び湯、壺湯

○ロッカー:男性 180、女性 222、洗い場:男性 28、女性 36

3階:岩盤浴フロア【岩盤浴3室、休憩スペース、コミックコーナーなど】

○複数種類の岩盤を備えた岩盤浴室

○ロウリュウイベントが可能な岩盤浴室

○クール岩盤浴室

利用料		大人	65歳以上	子ども
平日	入館料	500円	400円	250円
	岩盤浴	450円	350円	200円
土日祝日	入館料	600円	500円	300円
	岩盤浴	500円	400円	250円

山口市の可能性 ～健康都市づくりを進めていく上での地域資源～

- (1) 山口に広がる自然(山・海)
多様な自然を活用したレジャーや
余暇の過ごし方が可能



自然に囲まれた環境の中で、
心身ともにリフレッシュできる

山口市の可能性 ～健康都市づくりを進めていく上での地域資源～

(2) 山口で広がるスポーツ・ツーリズム

「ツール・ド・山口湾」や地域が主催する「マラソン大会」をはじめ、市内でスポーツ・ツーリズムが広がりを見せています。



ツール・ド・山口湾



フットサルサッカー競技施設



阿知須72カントリーをはじめとするゴルフ場



ノルディックウォーキング



湯田温泉



スポーツで汗をかいた後は
温泉でリフレッシュ

山口市の可能性 ～健康都市づくりを進めていく上での地域資源～

(3)「温泉」 湯田温泉(まちなか温泉)

【特徴】

- 都市部にある温泉街で住居、都市機能、飲食機能が集積されており、多世代の市民が集う場所。
- 1日2000トンの天然温泉が湧き出ており豊富な温泉資源を有しており、周辺には入浴施設のほか足湯も多く整備されている。
- かつて維新の志士たちが、湯田温泉を利用していたこともあり、周辺に維新の志士ゆかりの歴史的資源を多く有しているほか、中原中也、種田山頭火など文化人のゆかりも深い場所。

健康都市やまぐちを支える地域資源

- 温泉は、全国的にも観光資源として活用されている中、山口市の湯田温泉のような、まちなか温泉は全国的にも珍しく、交流人口の創出に加え、地域コミュニティの健康づくりの新たな拠点へと発展できる可能性がある。



湯田温泉を活用した健康づくりの展開

「健康」×「温泉」×「都市基盤」による健康都市やまぐちへ

【主要機能】

温泉を中心として、

公共性の高い地域福祉団体の事務所や、高齢者の憩いの場、子育て広場など多世代交流が可能となる都市の拠点化

【どのようなまちになるのか】

- 市内で歩く人が増え、中心市街地に人が集まる。
→市民の健康増進、中心市街地の活性化が図れる。
- 若い人から高齢者まで楽しめ、多世代の交流が図れる。
→定住促進、生きがいの創出。
- 中心市街地でみんなと学びあえる。
→学びや教えることを通して人が育つ。

➡ みんなの「目的地」になる＝「交流拠点」

